

1 題材名 気もちのおんどけい

2 授業のねらい

- ・同じ感情でも、人によってその程度が違うことに気づく。

3 本時の展開

児童の活動	指導上の留意点	準備物
1 本時の課題をつかむ	<p>○うれしい時を思い起こさせ、自由に発表できるようにする。</p> <p>○発表の中から3つの場面を取り上げて、うれしい気持ちがどれくらいかを手で表現させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>うれしい気持ちを両手の大きさと表してみましよう。</p> </div> <p>・これくらい？ ・わかりません。</p>	<p>○絵カード (うれしい顔)</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> <p>「気もちのおんどけい」で、気もちがどれくらいかをあらわそう。</p> </div>		
2 「気もちの温度計」を使って感情の程度を表現する。	<p>○「気もちの温度計」を自由に動かしてみることで、次への活動にすぐ入ることができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どれくらいうれしさを気もちの温度計で表してみましよう。</p> </div> <p>○具体物を使って教師が例示することで、「気もちの温度計」の表し方が分かるようにする。</p> <p>○板書した項目を順番に読み、どれくらいうれしさを「気もちの温度計」で表現させる。</p> <p>○友達と温度計を見合うことで、自分と友達とは感情の程度に相違があることに気付くことができるようにする。</p> <p>・そんなに多いの？ ・少ないなあ。</p>	<p>・気もちの温度計</p> <p>・ワークシート</p>
3 友達の感情の程度を想像する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>友達がどれくらい怒ったり驚いたりしているのか想像してみましよう。</p> </div> <p>○怒り・驚きの感情について具体的な場면을提示しながら、感情当てゲームをすることで、友達の気持ちを想像する経験をさせる。</p> <p>○学習形態を2～3人のグループにすることで、互いに話し合ったり、助け合ったりすることができるようにする。</p>	<p>・ワークシート</p> <p>・ワークシート</p>
4 今日の授業を振り返る	<p>○ワークシートに振り返りを書くことで、本時で学習したことを明確にすることができるようにする。</p> <p>○数名に発表させ、本時のまとめとする。</p>	